

## 問題【国語】

下線部を漢字に直しましょう。

- (1) いなかで暮らす。 (2) くだものを食べる。  
(3) けさ、早くに家を出た。 (4) もめんのハンカチ  
(5) ゆくえ不明者を検索する。 (6) ビールを飲む。

## 豆知識 雑学コラム

## 熟字訓、独特の読み方

漢字には、「山」には「やま」、「川」には「かわ」というように、基本的には一文字ごとに読み方が決まっています。しかし、それだけではあらゆる言葉を漢字で表すことはできません。そこで、「一人」を「ひとり」と読むように、二文字以上の漢字で決まった読み方、意味になるものがあり、これを熟字訓といいます。今日は熟字訓をみていきましょう。

そもそも、なぜ二文字以上の漢字で決まった読み方を言葉があるのでしょうか。「田舎」を例に見ていきましょう。そもそも「いなか」という言葉はいつの時代からあったのでしょうか。万葉集には、「昔こそ難波田舎と言はれけめ今は都引き都びにけり（昔は田舎と言われた難波（現在の大阪）も今は改造され、今ではすっかり都らしくなってきた。」という歌があり、「いなか」という言葉が古代からあるとても古い言葉であると推測できます。

漢字が登場するまで、日本語は文字で書かれることはありませんでした。「いなか」という言葉も、それを表す文字がなく、話し言葉でのみ使われていまし

た。後に、漢字が使われ始めることで日本語は文字で書けるようになりましたが、問題が出てきました。「いなか」という言葉を伝えるのに、漢字一文字では適切な文字がなく、「いなか」と読める漢字で当て字をすると意味が伝わらないということです。

そこで、古代の人たちは「田んぼの中に建物（舎）が少しある」という意味を表す「田舎」という熟語に「いなか」という読み方を当てました。このように熟字訓は漢字が伝来する前から使われている日本語（＝和語）にその意味を表す漢字をつける形で作られたものが多くあります。

また、熟字訓は「和語」ばかりではありません。例えば、「ビール」を「麦酒」と書くように外来語を漢字で表記するために、その意味を表す漢字をつけたものもあります。

熟字訓の成り立ちを見てみると、意味を表す漢字を組み合わせた後で、読み方を決めてもいいんだと感じますよね。身の回りにある漢字になっていない言葉を見つけて、意味から漢字をつけてみましょう。もしかしたら、新しい熟字訓が生まれるかもしれませんよ。

## 【解答】

- (1) 田舎 (2) 建物 (3) 今朝 (4) 木綿 (5) 行方 (6) 黍酒